

授業科目(ナンバリング)	心理学(国際観光学科)(AB108)			担当教員	村上 広美		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
心理学とは、こころを科学する学問である。本講義では、心理学の主要な理論や概要、基礎的な知識や考え方を学ぶことで、人間の行動やこころの働きを理解するための様々な視点について知り、日常生活における人間関係の円滑化やより深い人間理解に役立つ力を身につける。グループワークやペアワーク、ディスカッション等を含めた講義を通して、様々なこころの問題を提起し、ディプロマポリシーの到達に向けて、社会人として必要な幅広い教養的知識と物ごとや人を捉える際の広い視野、豊かな人間性を身につけることを目標とする。							②⑤⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	心理学の基礎的な知識について説明できる。				定期試験	10%	
情報収集、分析力	人間の行動やこころの働きについて、心理学的な視点を踏まえて自身の考えを表現できる。 心理学の知識や視点を踏まえて自己分析し、自分自身や他者を多角的に捉えることができる。				定期試験 小テスト	30% 10%	
コミュニケーション力	他者の言動の意図を捉えるために、他者の発言に耳を傾けることができる。 自分の意見や考えをわかりやすく述べるができる。				授業への取組み 小テスト	10% 10%	
協働・課題解決力	与えられた課題を的確に把握することができる。 ペアやグループでの課題に関与する言動や振る舞いができる。				小テスト 授業への取組み	10% 10%	
多様性理解力	様々な立場を尊重し、共生しようとする姿勢を示すことができる。				定期試験	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価は、定期試験 50%、小テスト 30%、授業への取組み 20%の配分で行う。定期試験は、選択形式と記述形式で問う。選択形式では、授業で扱った心理学に関する基本的な知識についての理解がどの程度できているかを評価する。記述形式では、設問に対してどの程度主体的かつ丁寧に自分の意見を述べるができるかを評価する。小テストは、毎回の授業終了時の小テスト(コメントカード)の内容を評価する。授業態度・授業への取組みについては、ペアワーク・グループワーク等で使用したワークシートの記載内容や授業中の受講態度、発言内容等を評価する。なお、コメントカードの内容については、翌週の講義内にてフィードバックを行う。							
授業の概要							
心理学の歴史、知覚、発達、認知、心理アセスメント、ストレス、精神障害、発達障害等、心理学の基礎的な部分から、応用的な方面まで、全般的な内容を網羅する。基本的にパワーポイントを中心にした講義を行うが、受講人数やテーマに応じて、ペアワークやグループワーク、ディスカッションなど、参加型の授業も適宜取り入れる。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分である。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。適宜資料を配布する。 参考書：鹿取廣人、杉本敏夫、鳥居修晃編「心理学(第5版)」東京大学出版会、佐藤基治・大上渉・内野八潮・池田浩・池田可奈子、「心理学AtoB」培風館、の内容を中心に講義資料を作成するため、より詳しく知りたい場合にはこの2冊を参考にして復習することを勧める。その他、授業のテーマに合わせて、参考図書を適宜紹介する。 指定図書：明星大学心理学科(編)「改訂版 心理学に興味を持ったあなたへ 大学で学ぶ心理学」Gakken							
授業外における学修及び学生に期待すること							
日頃からこころの問題に関心を持ち、授業で扱うトピックについて予習・復習を行うことを期待する。本講義においては心理学全般について広く浅く取り扱うため、授業の中で興味・関心があるテーマについては、授業内で適宜提示する書籍等を参考に、自己学習し理解を深めてほしい。授業には積極的な関心を持って臨むことを期待し、授業中の私語や理由のない遅刻等、学習態度が悪い者には厳しく対処する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	心理学とは何か	心理学の成り立ち（歴史）と心の測定方法について学び、「心理学」の基本的な考え方を理解する。	予) 心理学、こころなどのキーワードについて調べる。 復) シラバスを熟読する。
2	知覚の不思議 (知覚心理学)	心の入り口である“知覚”の心理的メカニズムについて理解する。	予) 知覚について調べる。 復) 様々な視点で物事を捉える練習をする。
3	行動と心の関係 (学習心理学)	学習理論など、“行動”に注目して心を理解することについて学ぶ。	予) 学習心理学に関するキーワードを調べる。 復) 学習のメカニズムについて説明できるようになる。
4	ヒトの心の特徴 (進化心理学)	心の機能や目的に注目して心を理解する視点について学ぶ。	予) 進化心理学に関するキーワードを調べる。
5	心と脳の関係 (神経心理学)	心と脳の関係、脳の仕組みと働きについて理解する。	予) こころと脳の関係について調べる。
6	心を測定する方法 (個人差心理学)	心理テスト、性格、知能などの、“個人差”を測定する方法について学ぶ。	予) 心理検査を調べる。 復) 心理検査の結果から自己分析をする。
7	心のメカニズム (認知心理学)	心の中の動き(知識や記憶の情報処理過程など)―“認知”について学ぶ。	予) 認知について調べる。 復) 授業で出てきたキーワードを説明できるようになる。
8	人はどんな風に発達する？ (発達心理学)	さまざまな発達観（理論）について学び、“発達”とはどのようなことかを理解する。	予) 周囲の乳幼児の様子を観察してくる。 復) 発達段階を整理する。
9	発達の偏りと多様性 (発達障害)	自閉症スペクトラム障害(ASD)、ADHD、LD などの発達障害について、その特徴を理解する。	予) 発達障害について調べ、イメージしておく。 復) 各障害特性を整理する。
10	感情の役割とは (感情心理学)	表情や感情の役割、感情と認知の関係について学ぶ。	予) 感情にはどのようなものがあるか調べる。
11	いい人？悪い人？ (社会心理学)	集団や文化といった社会的環境が印象や認知に与える影響について理解する。	予) 社会心理学について調べる。 復) 授業で出てきたキーワードを説明できるようになる。
12	なんだかいやな気持ち (ストレス)	ストレスについて学び、ストレスへの対処について理解する。	予) 自身がどんなことにストレスを感じるか挙げておく。 復) 授業で取り扱ったストレスへの対処法を試してみる。
13	行動に現れるこころの問題 (精神障害)	統合失調症、抑うつ障害(うつ病)、不安障害などの精神障害について、その特徴を理解する。	予) 精神障害について調べ、イメージしておく。 復) 各障害特性を整理する。
14	心の問題へのアプローチ (臨床心理学)	精神分析、来談者中心療法、認知行動療法など心の問題への様々なアプローチ方法について学ぶ。	予) 心理療法を調べる。 復) 各心理療法の違いについて整理する。
15	心理臨床の実際	本授業全体について総括し、心理臨床現場の実際について紹介する。	予) これまでの講義資料を読み返しておく。 復) 定期試験に向け、十分に復習を行う。
16	定期試験		

授業科目(ナンバリング)	心理学(社会福祉学科)(AB108)			担当教員	柳 智盛		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>心理学とは、一般に「心」と呼ばれるものの様々な働きである心的過程と、それに基づく行動を探究する学問である。現在その対象は非常に幅広く一言では語れないが、本講義では「人間理解」をひとつのキーワードとして、人間の様々な側面についての概論、また心理学的な研究の諸成果について学ぶことを通し、社会人として必要な幅広い教養的知識の理解に努め、実践することができるようになることを目標とする。介護福祉士養成課程においては、<u>介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理を理解する学習とする。</u></p>							③⑤ ⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	人の心を理解するための様々な理論や研究の諸成果を集め、それを分析して自己の成長や課題解決等に役立てることができる。				・定期試験 ・課題レポート	70% 30%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験の成績を70%とし筆記試験を行う。課題レポートは、適宜授業終了時の感想シートの内容を30%とし評価を行い、次回の授業で課題レポートの内容をフィードバックする。授業態度・授業への参加度は授業中の受講態度等を評価する。</li> <li>・定期試験は、選択形式と記述形式で問う。選択形式では、心理学に関する基本的な概念についての理解を評価する。特に心理学の様々なトピックについての理解がどの程度できているかを評価する。記述形式では、設問に対してどの程度主体的かつ丁寧に自分の意見を述べることを評価する。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>授業の進め方としては、基本的に教科書に沿った板書での講義形式で行う。適宜、プリントを補助資料として配布する。また、受講人数やテーマに応じてグループディスカッションなどを交え参加型の授業を推進する。また、適宜授業に心理テストなども取り入れ、受講者自身の自己理解を促す試みも行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：鈴木清編『人間理解の科学(第2版)』ナカニシヤ出版 参考書：授業の中で適宜紹介していくため準備は必要ないが、復習に役立てること。 指定図書：鈴木清編『人間理解の科学(第2版)』ナカニシヤ出版</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>心理学といっても、いわゆる「人の心の裏を読む」といったことではない。しかし、行動の1つひとつには必ず意味があるため、日頃から自分を含め「人を知る」ことに関心を持って授業に臨むこと、相手の立場になって理解しようとする姿勢をもっていることを期待する。遅刻・授業中の私語等学習態度が悪い者には厳しく対処する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	心理学とは何か	心理学の歴史や領域、研究法などを通して、心理学の基本的考え方について理解する。	予：心理学の歴史などを読み理解しておくこと 復：今回の内容を振り返る
2	人間性のモデル	精神力動的モデル、行動主義的モデル、認知的モデル、人間学的モデルといったさまざまな視点による人間理解についての代表的なモデルについて理解する。	予：人間性とは何かについて事前に考えておくこと 復：諸理論を理解する
3	行動の生物学的基礎	脳神経生理学的なメカニズムについての基本的理解について概説し、動物や人間の行動の生物学的基礎について理解する。	予：生物学的基礎を理解しておくこと 復：脳のメカニズムを覚える
4	感覚と知覚	視覚や聴覚などの感覚とその内的過程である知覚の心理学的メカニズムについて理解する。	予：感覚と知覚の違いを理解しておくこと 復：視覚現象を覚える
5	学習と認知・記憶	条件づけに代表される学習理論や、言語の獲得、記憶と忘却等の心理学的メカニズムについて理解する。	予：学習のメカニズムを理解しておくこと 復：学習理論を覚える
6	欲求・動機づけ・感情	欲求と行動、動機づけと行動、感情と情動等の心理学的メカニズムやプロセスについて理解する。	予：欲求と動機づけの関係を理解しておくこと 復：欲求・情動の理論を覚える
7	パーソナリティ	パーソナリティ（人格）や性格についての理解の仕方と形成、その測定方法について理解する。	予：パーソナリティの概念を理解しておくこと 復：人格と性格を考える
8	知能と創造性	知能についての考え方とさまざまなIQの概念についての歴史と定義、その測定法を理解する。また、創造性について理解する。	予：知能という言葉から連想されるものを事前に挙げておくこと。 復：知能の測定法を覚える
9	発達①	基本的発達観と発達諸理論について理解する。	予：発達の諸相とは何かについて調べておくこと。 復：発達理論を覚える
10	発達②	自閉症、学習障害などの発達障害とは何か、どのような特徴があるのか、どう理解すればよいか等について学ぶ。	予：発達障害とは何かについて調べておくこと。 復：特徴を覚える
11	ストレスの理解と処理	ストレスと適応について学び、ストレスの処理におけるストレスマネジメントについて理解する。	予：自分自身がどんなことにストレスを感じるか挙げておくこと。 復：対処方法を考える
12	臨床心理と適応への援助①	臨床心理学の理論と実際、カウンセリングの諸理論について理解する。	予：カウンセリングについて理解しておくこと。 復：技法を身に付ける
13	臨床心理と適応への援助②	精神分析や行動療法など種々の心理療法の実践について理解する。	予：代表的心理療法について理解しておくこと。 復：各心理療法を覚える
14	社会行動	社会的態度の発達や個人と集団の関係などについて理解する。	予：人と社会の関係について理解しておくこと。 復：社会行動理論を覚える
15	まとめ	本授業全体について総括し、未学習な部分を補完する。	予：授業の全体を振り返ること。 復：定期試験に向け十分に復習を行うこと。
16	定期試験		

授業科目(ナンバリング)	心理学 (AB108) (健康栄養学科・薬学科)			担当教員	中村 美穂		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
心理学とは、人の心の働きを、筋道を立てて理路整然と理解し説明しようとする学問である。本講義では、心理学の主要な研究領域を踏まえて、人の心の仕組みやそれに基づくさまざまな働きなど、基本的な考え方を学ぶ。それを通して、人と人が社会で共生する上で必要とされる「人間理解」及び「人間関係」の力を身につける。講義を通して、社会的に自立した人として生きていく上で必要な幅広い教養的知識を修得し、それぞれの豊かな人生を送る上で重要な人間力としてのコンピテンシーの向上を目指す。							②⑤⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	人の心の仕組みやさまざまな働きなどについての基本的な考え方を学び理解することができる。				定期試験	10%	
情報収集、分析力	人の心についての主要な研究領域の理論を学び、それに基づく臨床実践を知ることを通して、自分、そして他者の心の動きなどを理解することができる。				定期試験 レポート	40% 10%	
コミュニケーション力	自分の思いや考えを目の状況や必要に応じて、自由に表現することができる。他者の立場を理解し尊重することができる。				授業への取り組み	20%	
協働・課題解決力	課題解決に向けて、相互に話し合うことができる。自分とは異なる他者の意見を受け容れ、協力して課題に取り組むことができる。				授業への取り組み	10%	
多様性理解力	自分の特性や強みを活かして、他者と共に協力して生活しようとする心構えを持つことができる。				定期試験	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価は、定期試験を60%として、筆記試験を行う。試験の内容は、選択形式と記述形式とする。選択形式では、心理学の主要な研究領域における基本的な考え方などについての理解を評価する。記述形式では、設問に対してどの程度丁寧に取り組み、主体的に自分の意見を述べることを評価する。レポートは10%として、心理学に関するテーマごとの講義終了時のコメントシートの内容を評価する。受講態度・授業への取り組みについては、ペアワークやグループディスカッションなどで使用したワークシートの記載内容、受講態度や授業中の発言内容などを評価する。なお、コメントシートの内容については、翌週の講義内にてフィードバックを行う。							
授業の概要							
人の心の仕組みや、それに基づく心の働きについて解き明かすことを目指す基礎研究として、認知心理学、発達心理学・社会心理学に焦点を当てる。それに対して、心のケアとサポートに目を向ける臨床心理学について理解する。さらに、心理学の学びを深めるため、心理学の歴史や発展などについて紹介する。主にパワーポイントを中心にした講義を行う。受講人数やテーマに応じては、ペアワークやグループディスカッションなど、参加・協同型の授業も適宜取り入れる。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。適宜資料を配布する。 参考書：1) 今井久登・平林秀美・工藤恵理子・石垣琢磨『心理学をつかむ』有斐閣 ：2) 鹿取廣人、杉本敏夫、鳥居修晃編『心理学（第5版）』東京大学出版会 以上の書籍を中心に講義資料を作成するため、より詳しく知りたい場合にはこの2冊を参考にして復習することを勧める。その他、授業のテーマに合わせて、参考図書を適宜紹介する。 指定図書：今井久登・平林秀美・工藤恵理子・石垣琢磨『心理学をつかむ』有斐閣							
授業外における学修及び学生に期待すること							
日頃から、人の心を学び知り、自分自身を大事に、そして自分を取り巻く他者も大事にして、より豊かに生活しようとする姿勢をもつことを期待する。本講義を通して、実際の学生生活における「人間理解」及び「人間関係」を円滑化させる工夫を行うことを心がけてほしい。授業には積極的な関心を持って臨むことを期待し、授業中の入室や私語など、学習態度が悪い者には厳しく対処する。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	心理学とは何か (オリエンテーション)	人の心の働きを、道筋を立てて理解するための心理学の主要な研究領域について概観し、本講義を通して学ぶ心理学の基本的な考え方などについて紹介する。	人の「心」についてのキーワードをイメージしておく。 参考書 1) pp1-9
2	「知覚・認知」と心 (認知心理学 1)	自分を取り巻く外界をどのように見聞きし、その情報をどのように取り入れ認識しているのか、その心理学的メカニズムについて学ぶ。	知覚や認知に関する心理学について予習・復習する。 参考書 1) pp10-33
3	「記憶・学習」と心 (認知心理学 2)	取り入れた情報をどのように記憶し、それに基づく学習を通して、どのように新たな行動を獲得するのか、その心理学的メカニズムについて学ぶ。	記憶や学習に関する心理学について予習・復習する。 参考書 1) pp34-57
4	「思考・日常認知」と心 (認知心理学 3・まとめ)	さまざまな経験を通して、どのように思い考えるのか、その特性などを学び、日常生活の中で働く認知の過程にも着目する。	ヒューマン・エラーなどをイメージしておく。 参考書 1) pp58-81
5	「心」・「対人関係」の発達 (発達心理学 1)	人の物の見方や考え方、行動が、人生の発達段階に応じて、どのように変化していくのか、どのように人と関わり成長していくのかなどについて学ぶ。	発達に関する心理学について予習・復習する。 参考書 1) pp86-110
6	「情動」・「自己と社会性」の発達 (発達心理学 2)	人の情動はいつ頃からどのように発達していくのか、「自分」という存在に気づき、どのように社会的ルールを理解するのかなどについて学ぶ。	情動などに関する心理学について予習・復習する。 参考書 1) pp111-129
7	「認知」の発達と大人になるために (発達心理学 3・まとめ)	子どもから大人になるまでの発達について、子どもの言葉の獲得や、青年期から成人期の移行段階における発達の特徴などについて学ぶ。	大人になるということについてイメージしておく。 参考書 1) pp130-138
8	「自己」と「他者」の理解と「社会的推論」 (社会心理学 1)	人は社会的存在であることを前提として、人が社会の中でどのように自分を捉え、他者を理解するのかなどについて学ぶ。	社会的存在であるということについてイメージしておく。 参考書 1) pp142-162
9	「対人関係」 (社会心理学 2)	人と人が関わる場面における心理的なプロセスという対人相互作用などについて学ぶ。	社会に関する心理学について予習・復習する。 参考書 1) pp163-179
10	「集団」と「社会的影響」 (社会心理学 3・まとめ)	人が集まり、集団となった場合の心理的なプロセスや、人が他者や自分がおかれた状況からどのように影響を受けるのかなどについて学ぶ。	集団に関する心理学について予習・復習する。 参考書 1) pp180-197
11	「発達」と心の問題 (臨床心理学 1)	「発達」に関連する心の問題を取り上げ、それに影響すると考えられる生物学的な要因や心理学的な要因について学ぶ。	発達に関する心の問題についてイメージしておく。 参考書 1) pp200-212
12	「ストレス」と心の問題 (臨床心理学 2)	悩みは誰にでもあるが、その悩み自体が大きすぎると生活しづらさが生じることも人生には起こりうる。心の問題をどう理解し対応するかなどについて学ぶ。	ストレスマネジメントなどについて調べ予習・復習する。 参考書 1) pp213-220
13	「心の問題」への援助法 (臨床心理学 3)	生活しづらさを乗り越え、より豊かな人生を送る上では、そのために必要な援助法を知ることが重要である。カウンセリングなどについて学ぶ。	カウンセリングなどについて予習・復習する。 参考書 1) pp221-241
14	「心理臨床の現場」から (臨床心理学 4・まとめ)	実際に心の専門家がさまざまな現場で、どのように活動しているのか、何が求められているのかなどについて学ぶ。	こころと向き合う現場についてイメージしておく。 参考書 1) pp242-248
15	さらなる心理学の学びと誘い (まとめ)	学問としての心理学についての学びを深め、今後の心理学に関する学習への問題意識などを整理する。未学習な部分を補完する。	これまでの講義資料を読み返しておく。定期試験に向けて、十分に復習を行う。
16	定期試験		